

はじめに

札幌市衛生研究所は、市民の健康と快適な暮らしを守るため、保健衛生、公害に関する調査研究、試験検査、新生児マス・スクリーニングの機関として、公衆衛生行政を科学的に支える、重要な役割を果たしております。

近年の社会環境の複雑化に伴い、母子保健衛生問題、公害問題、ウィルス性感染症の問題等、直接市民の健康保持にかかわる問題も多く、衛生研究所の担う責務も、ますます重大なものとなってきております。

最近の石油をはじめとする原材料コストの高騰、政府のインフレ対策、引き締め政策等、財政事情の厳しい中で、札幌市衛生研究所新庁舎については、皆様方のご理解とご協力により、その必要性が急速に高まり、札幌市にふさわしい衛生研究所建設計画が進められていることは、大変よろこばしいことであります。

昭和53年度衛生研究所における最大の事業は、地方自治体としては日本で最初に行われることになった、新生児クレチン症のマス・スクリーニングであります。

このクレチン症スクリーニングは、本年7月までに25,646件の検査を行い、6例のクレチン症が発見され、札幌市の発生頻度は4,300分の1と高頻度であることが判明し、早期発見、早期治療に効果をあげています。

私達は、衛生行政のなかの研究所の位置づけを認識し、今後ともたゆまぬ努力を続けていく所存です。

この小冊子が、いささかなりとも関係者の方々に役立つことがあれば望外のよろこびであります。

昭和54年10月

札幌市衛生研究所長
高杉信男